

# 自立への道



写真は日本シングルマザー支援協会代表の江成道子さんです。  
昨年秋に上梓された「**シングルマザー自立への道**」の著者であり、全国のシングルマザーの経済的・精神的支援活動をされています。

江成さん自身、シングルマザーとして5人のお子さんを育てあげました。  
育児の不安、お金の不安、健康の不安、将来の不安・・・  
それらに向き合い、そこから逃げずに、頑張って生きて来られた。

先月東京で江成さんに面談を申し込んだ動機。  
それは「自立した女性」の見本だったからです。

今や3組に1組が離婚する時代。

私は「離婚＝悪」とは全く思いません。江成さんの著書の中にもこうあります。

「夫婦仲が悪くて何年もろくに口を利かないような状態にもかかわらず、いっしょにいることが子どものためだと思っている人が多い。離婚しないのが本当に子どものためなのか、今一度考えてみる必要があると思います」

「子どもに与える影響で一番悪いパターンが、子どものためという欺瞞。それから“離婚は恥”という世間的な体裁で、夫婦関係がどれほど悪くても離婚しないということです。日本では離婚することは悪とされ、何が何でも離婚しないことが善とされているので、中身のない不毛な関係を続けている夫婦が多いです」

私は22年間の漢方相談で、これまで4組のお客様を離婚に導きました。

なぜか？

“中身のない不毛な関係を続けている夫婦”のご家庭の病気は  
どんなに高価な薬を処方しても治らないからです。

子どもの健康だけではなく、不登校・引きこもり(ニート)・家庭内暴力・非行など  
子どもの自立心と人格形成を奪うからです。

離婚に至る一番の原因を江成さんから伺いました。

夫のDV・借金・浮気などではなく、“性格の不一致”だそうです。

“性格の不一致”とはつまるところ、父親と母親の考え方生き方・子育てに対する  
価値観の違いということになります。

「楽しむためにお金は使っている」と考える夫。

「将来のためにお金は節約すべき」と考える妻。

「子どもは風邪を引いて抵抗力をつけていくもの」と考える夫。

「風邪を引いたらすぐに病院に連れていくべき」と考える妻。

こうした数々の価値観の違いから、夫婦での衝突が生じます。

“衝突”はいいのです。問題は、衝突から夫婦間で解決に向けて話し合おうとせずに

「自分の考え＝正」「相手の考え＝誤」として、自分を正当化させて黙り込む。

その結果、“中身のない不毛な関係を続けている夫婦”と化してしまう・・・。

なぜそうなってしまうのか？

夫婦、お互いが「自立への道」を歩んでいないからです。

「一人になっても前向きに生きていく！」という自立心が育っておらず、「一人になるよりはマシ・・・」という相手への依存心で生きているからです。

以下も江成さんの著書で共感した部分です。

**「よく子どもが病気をしやすいので私は働けませんというお母さんがいます。確かにぜんそく持ちや虚弱体質であったりするので一概には言えませんがお母さんから負の要素ばかり受け取っていると、子どもは熱を出したり、怪我をやすくなったりします。不思議なことに、いつも元気で前向きなお母さんの子どもは、あまり病気をしないものです」**

私も医療の現場にいて、そう実感することしばしばです。  
保育士や小学校教師のお客様からも、そうした感想をよく伺います。

「子どものために」が悪いことではありません。母性が全く機能していない状態がネグレクト（育児放棄）ですから。しかし、ここでも問題は、そうしたお母さんに“自立心”が見えないことです。子どもに自分の人生を重ね合わせ過ぎている。

いわゆる過保護・過干渉な親ということですが、子どもが親元を離れて自立していく過程を受け入れられず、子どもを囲ってしまいう育てをしがちです。  
いつしか親も子も“自立”（親離れ・子離れ）できなくなってしまう。

時代は平成最後だと言うのに、いまだに昭和時代の高度経済成長期の価値観で生きている女性がいます。「妻は家を守り、内助の功に尽くすべき存在」。  
共働きがスタンダードな時代にそんな高給取りの夫、今時いませんよ！（笑）

「子どもがいるので働けません」「子どもが小さいので働けません」  
自立への道から離れているお母さんの声をしばしば耳にしますが、それは  
“働くことができない子育て”をしているからでは？  
「自分の人生をしっかりと生きていく」という自覚がないからでは？  
「人の役に立つ人間になりたい」という理想がないからでは？

江成さんはおっしゃいました。

「年収200万以下の貧困家庭のシングルマザーに共通していることは、自分に自信がなくマイナス思考で、自分の能力や価値を見出せていない人ばかり。自分で稼いで貧困から抜け出すという概念がなく、次は誰に、どこに頼るか？ そのことばかり考えている」と。

江成さんはそうした女性たちを少しでも“自立への道”に導き、貧困から抜け出させ「自分にもできた！ 自分もやれる！」という“自立の喜び”を形成させるために行政や企業とタイアップして、全国各地を飛び回っていらっしゃいます。

そんな自立支援をしている江成さんも、最初から自立していたわけではないそう。30代は、「愚痴まみれの人生」だったそう！（笑）夫への不満、子どもへの不満、職場への不満、社会への不満・・・それが“バツ2”という結果にもつなげた。ある時、延々と友人にそんな愚痴を吐いていた。会計の時にその友人から「今日は私がおごるよ。今のあなたに、私はこれくらいしかできないから」それを聞いてハッとした。自分の愚かさに気づき、心底情けなくなったそう。それからは良書を読み漁り、尊敬できる人との出会いを通じて現在に至ったそう。

文句ばかり言っている人というのは、結局、自分で幸せになる努力をすることなく自分の不幸の原因を「相手のせい」にしています。結果、愚痴・不平不満の人生となる。でも、一人で生きていくことは寂しい・・・一人では生きていく自信がない・・・それが不満を覚える家族にもかかわらずそこから離れられずに依存する始末となっている。それが先に記した、“中身の無い不毛な関係が続いている夫婦”の正体です。

私も江成さんも、離婚を勧めているわけではありません。「誰にも頼らずに、自分一人で生きていけ！」と言っているのでもなく。「なんとかしてもらえる」「なんとかしてもらおう」という主体性のない依存心、自分と向き合っていない「人任せの生き方」が問題だと気づいてほしいのです。

**子育ての本質は、衣食の世話や送迎ではなく、人生の困難に立ち向かう自立心を子どもの心にしっかり育てることです。**  
**そのためにもまずは親自身が“自立への道”に生きる。**

ご家庭に母性が足りない時は太田東西薬局が優しい母となり、父性が足りない時は厳しい父になります。そうしてご家庭を和合して行ってほしいと願っています。

シングルマザーに限らず、  
家族に思いやりを持ちながらも  
家族に依存することなく  
自分の人生をしっかりと生きる。

それが  
“自立への道”です。

江成さん、とっても聡明でありながらノリの良い女性でした（笑）今年、長崎での講演会の依頼を快諾してくださいました。お楽しみに！

